

大阪・関西万博感染症情報解析センター 設置・運営報告書

大阪府健康医療部保健医療室医療・感染症対策課

大阪市健康局大阪市保健所感染症対策課

はじめに

2025年日本国際博覧会（万博）は、国内外から同時期、同じ目的で特定の場所・地域に多くの者が集まる「国際的マスギャザリングイベント」で、2025年4月13日から10月13日までの、計184日間開催されました。

万博開催を前に、2025年1月14日、万博会場などで発生した感染症の情報を収集、解析する「大阪・関西万博感染症情報解析センター」が、大阪健康安全基盤研究所に設置されました。大阪府、大阪市、国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所、大阪健康安全基盤研究所で構成されています。万博開催期間中は、開催期間が春から秋にかけて、約半年間になるという特徴を踏まえ、万博（来場者、スタッフ）に関連した集団発生、国外からの持ち込み、大規模事例かつ重症度の高い疾患について、早期探知を目的に、リスク評価を行い、強化サーベイランスを、実施いたしました。平日にはミーティングを毎日開催し、収集した情報を解析し、万博への影響を評価し、土曜日を含む休日にも万博協会から送付される健康管理情報等も確認し、異常がないか監視してまいりました。解析結果は、保健所や万博協会に還元し、ホームページで府民や来場者等へ、毎週、情報発信を行ってまいりました。幸い、大規模な感染症の発生はなく、11月30日に、強化サーベイランスを終了いたしました。

私どもは、「大阪・関西万博感染症情報解析センター」の活動を通じて、大阪府、大阪市、保健所、万博協会、国立感染症研究所、大阪健康安全基盤研究所などの多機関との連携、そして、府民、来場者、関係者への情報発信の重要性を実感いたしました。万博期間に、私どもが得た経験、多機関との連携、人材育成は、今後のマスギャザリングイベントでの対応、そして、感染症の大規模発生時の対策等の、今後の活動の礎にしていきたいと思っています。

大阪健康安全基盤研究所 公衆衛生部
大阪・関西万博感染症情報解析センター長
本村 和嗣

目 次

用語・略称.....	3
第1編 大阪・関西万博における感染症対策強化の概要.....	4
1. 大阪・関西万博感染症情報解析センターを中心とした感染症対策の強化	4
2. 解析センターの概要	4
3. 感染症対応力強化のための研修・訓練等の概要.....	6
第2編 大阪・関西万博の開催に向けた取組	7
1. 感染症関係5者会議の開催	7
2. 解析センターの運営内容決定	9
3. 強化サーベイランスの情報収集体制の構築	10
4. 解析センター運営に向けた各種調整	12
5. 関係機関への依頼・その他調整等	13
6. 万博開催までに実施した各種研修・訓練	14
第3編 大阪・関西万博感染症情報解析センターの運営・取組.....	18
1. 解析センター運営開始(発足式)	18
2. 解析センターの一日の流れ	18
3. 週報・臨時報の作成・情報還元.....	19
4. 万博関連として対応した事例	19
5. 解析センター専用サイトでの情報発信.....	20
第4編 資料編.....	22
【別添1】大阪・関西万博感染症情報解析センター設置要綱.....	22
【別添2】大阪・関西万博感染症情報解析センター業務運営要領.....	22
【別添3】国リスク評価(令和6年1月9日付け国立感染症研究所発出「2025 年日本国際 博覧会(大阪・関西万博)に向けての感染症リスク評価」)	22
【別添4】国事務連絡(令和6年9月6日付け厚生労働省発出「2025 年日本国際博覧会 (大阪・関西万博)開催に伴う感染症サーベイランスの取組強化について」)	22
【別添5】大阪府医師会への協力依頼	22
【別添6】府内保健所への協力依頼	22
【別添7】万博協会への協力依頼	22
【別添8】全国都道府県等への協力依頼.....	22

用語・略称

本書で使用する用語・略称は、本文内で別に定めるものを除き下表による。

なお、本書内で記載する組織名称は、記載内容に応じた年度の組織名称で記載する。

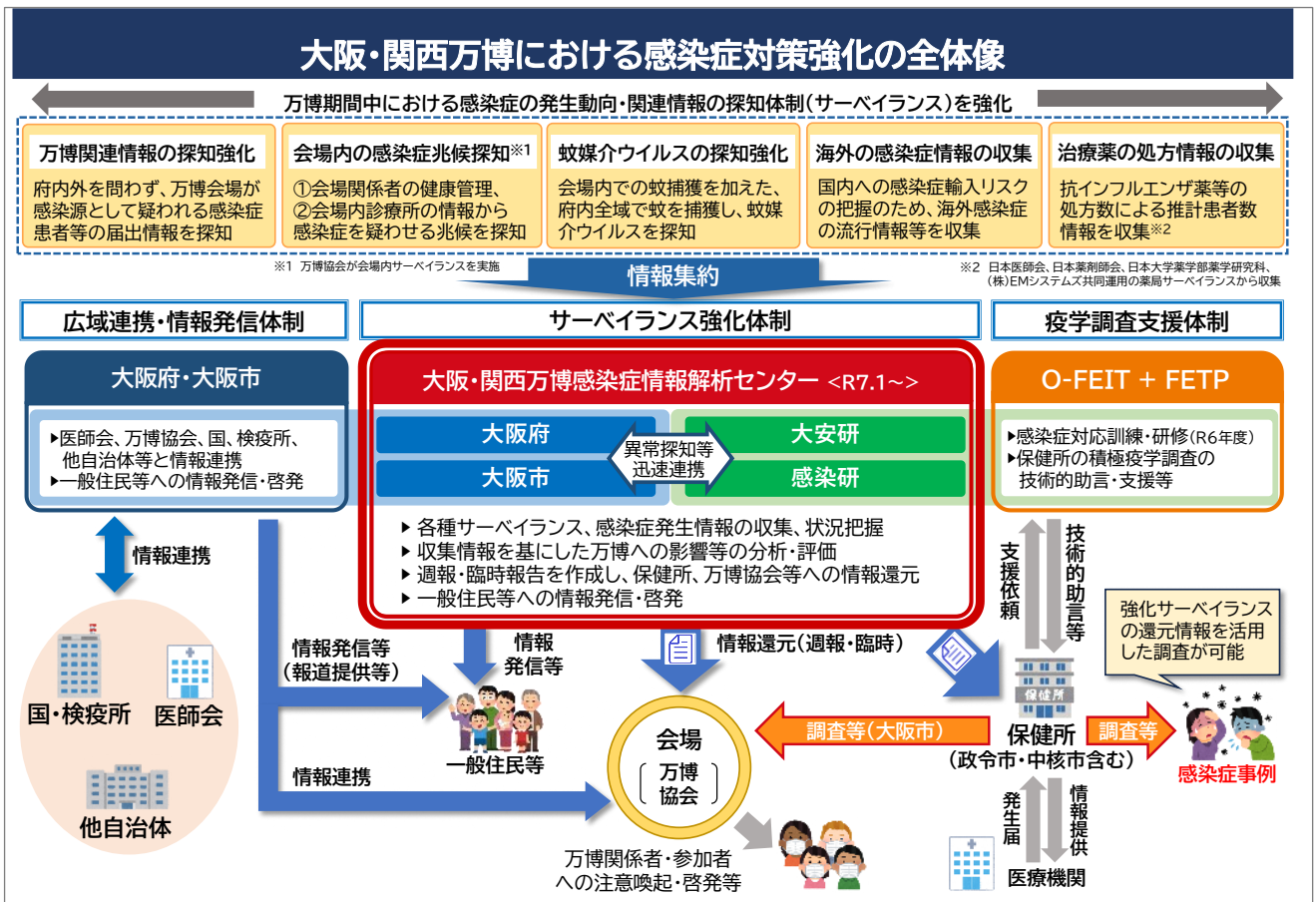
用語・略語	意味
都道府県等	都道府県、保健所設置市及び特別区を指す
大阪健康安全基盤研究所	地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所を指す
国立感染症研究所	国立感染症危機管理研究機構国立感染症研究所を指す。 (令和7年4月、国立健康危機管理研究機構発足)
マスギャザリング	一定期間に限られた地域において、同一目的で集合した多人数の集団
サーベイランス	継続的・体系的に行う調査・監視
感染症法	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の略称
感染症発生動向調査	感染症法に基づき、都道府県等が行う全数把握及び定点把握の感染症に係る患者及び病原体の情報収集・分析等を行うサーベイランス事業
疑似症サーベイランス	感染症法第14条の規定により実施される疑似症（発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。）のサーベイランスを指す
万博	2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）を指す
万博協会	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会を指す
会場	万博の運営に係る会場として使用するすべての区域を指す
医療救護施設	会場内に設置する診療所及び応急手当所
万博関係者 ※万博協会策定「2025年日本国際博覧会における会場衛生基本計画」に規定する非公式参加者、一般営業参加者及びその他博覧会に参画する事業者を含む。	国・地域及び国際機関からの公式参加者、パビリオン出展・催事・運営・営業等に係る万博会場での業務に従事する者（医療・警備・清掃・案内所担当やボランティア等）、国・大阪府市・警察・消防等の関係機関からの従事者及び主催者である公益社団法人2025年日本国際博覧会協会を指す
来場者	入場チケットを利用して万博に来場した者を指す
2025年大阪・関西万博推進本部	万博の円滑な開催を支援することを目的として設置。大阪府知事を本部長、大阪市長を本部長代行とする。
医療衛生部会	2025年大阪・関西万博推進本部が設置する専門部会の一つ。大阪府健康医療部長を部会長、大阪市健康局長を副部会長とする。
国リスク評価	令和6年1月9日付け国立感染症研究所発出「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けての感染症リスク評価」を指す。
国事務連絡	令和6年9月6日付け厚生労働省発出「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催に伴う感染症サーベイランスの取組強化について」を指す。

第1編 大阪・関西万博における感染症対策強化の概要

1. 大阪・関西万博感染症情報解析センターを中心とした感染症対策の強化

万博は、開催期間（令和7年4月13日から10月13日まで）の前後を含め、万博関係者や来場者など国内外から多数の来訪者が、会場のある大阪市内を中心とした大阪府及びその近郊に訪れることが想定される極めて大規模な国際的マスギャザリングである。マスギャザリング・イベントでは感染症の発生リスクが高まることから、感染症対策の強化が求められ、感染症法に基づく感染症発生動向調査の感度を上げるなどの対策が必要であった。

そのため、安全・安心な万博の開催に向けて、感染症発生動向調査に加えて、様々な観点から幅広く感染症の発生及びそれら兆候の探知（強化サーベイランス）を行い、感染症の発生リスクを評価するとともに、関係者への速やかな情報連携や一般住民等への正確な啓発・注意喚起を行う体制を構築することを目的に、2025年大阪・関西万博推進本部の医療衛生部会は大阪・関西万博感染症情報解析センター（以下、解析センター）を設置し、感染対策の強化を行った。



万博における感染症対策強化の全体像

2. 解析センターの概要

解析センターは、大阪府、大阪市、大阪健康安全基盤研究所、国立感染症研究所の職員で構成し、大阪健康安全基盤研究所が運営を行った。なお、大阪健康安全基盤研究所以外の構成員は、常時配置せず、オンライン会議等を活用しながら密に情報連携を行う体制とした。

大阪・関西万博感染症情報解析センター概要(1)

大阪・関西万博感染症情報解析センターの設置・役割

大阪・関西万博感染症情報解析センター(解析センター)の設置及び運用内容に関する概要は以下のとおり。

設置運営	大阪健康安全基盤研究所 ※センター長は、同所に置く。	運用内容	① 各サーベイランスによる感染症の探知・情報収集 ▶ 大阪健康安全基盤研究所が中心となり、各サーベイランスの情報を集約。 ▶ 発生届に関する情報について、府外の情報は、国立感染症研究所経由により情報収集し、万博会場に関連する調査依頼情報等は大阪市より収集。
構成員	大阪府(健康医療部保健医療室感染症対策課) 大阪市(健康局大阪市保健所感染症対策課) 大阪健康安全基盤研究所(公衆衛生部健康危機管理課) 国立感染症研究所(FETP、実地疫学研究センター)※ ※R7.4月以降は、国立健康危機管理研究機構(JIHS)の担当部署		② 感染症情報の解析評価及び週報等の作成、保健所、万博協会への情報還元 ▶ 国立感染症研究所と連携し、大阪健康安全基盤研究所がリスク評価。 ▶ 週報等を作成の上、保健所、万博協会へ情報還元。
設置期間	R7.1.1~12.31 ※センター運用の準備期間を含めた期間		③ 一般住民等への感染症の情報発信 ▶ 感染症の発生状況に合わせて、週報等を踏まえ、大阪健康安全基盤研究所が実施。
運用期間	R7.1.14~11.30 ※センター運用(サーベイランスの実施等)の実施期間		④ 関係機関との情報連携 ▶ 大阪府、大阪市が、国等の関係機関と連携して、感染対策を強化。
運用時間	平日9時30分~17時(予定) ※緊急事案は、上記時間外も対応		○大阪健康安全基盤研究所以外の構成員は、常時配置せず、情報連携、必要時の招集を行う4者間の組織として設置。 ○構成員の人数は、以下のとおり。(R7.4.1現在) 大阪府 8名程度 大阪市 10名程度 大阪健康安全基盤研究所 センター長1名+7名程度 国立感染症研究所 5名程度

令和8年4月11日「2025年大阪・関西万博推進本部」医療衛生部会における検討状況(最終取りまとめ)資料抜粋

大阪・関西万博感染症情報解析センター概要(2)

強化サーベイランスの収集体制

感染症発生動向調査だけでなく、様々な観点から幅広く感染症の発生及びそれら兆候を探知し、総合的に感染症の発生リスクを評価することが重要であることから、以下を強化サーベイランスとして位置付け、大阪健康安全基盤研究所が中心となり情報を収集。

	万博関連サーベイランス	会場内サーベイランス	蚊サーベイランス	メディア情報サーベイランス	薬局サーベイランス
サーベイランス実施主体	都道府県保健所設置市等	万博協会	大阪府府内保健所設置市等	— (公式・非公式メディア)	以下4者の共同運営により、情報を公開 日本医師会、日本薬剤師会、 日本大学薬学部薬学研究科、 (株)EMVシステムズ
収集情報	万博関係者や来場者であって、会場が感染機会と考えられる事例や感染可能期間に会場内の行動歴がある事例	①万博の関係従事者の日々の健康管理情報、②会場内診療所で診察した症例の情報(発熱、呼吸器症状等の集積把握)	蚊媒介感染症ウイルス※の検出結果 ※デングウイルス等 【蚊捕獲箇所数】(予定) 府全域約50箇所 会場内2箇所	公式・非公式メディアの情報	薬局の抗インフルエンザ薬等の処方数から算出したインフルエンザ等の推計患者数
収集方法	感染症サーベイランスシステム、関係保健所等への聞き取り、大阪市からの情報提供等	万博協会から収集	各検査結果を同所又は堺市衛生研究所の検査担当課等から収集	インターネット等から収集	インターネットで公開されている情報から収集
収集期間	国の事務連絡に記載の実施期間を踏まえて関係機関と調整した期間(解析センターの運用期間中)	万博協会と調整した期間(解析センターの運用期間)	各自治体のサーベイランス実施期間(解析センターの運用期間)	解析センターの運用期間	解析センターの運用期間
【参考】想定収集期間	R7.3.13~11.30	R7.1.14~10.13	R7.5月中旬~10月下旬	R7.1.14~未定	R7.1.14~11.30

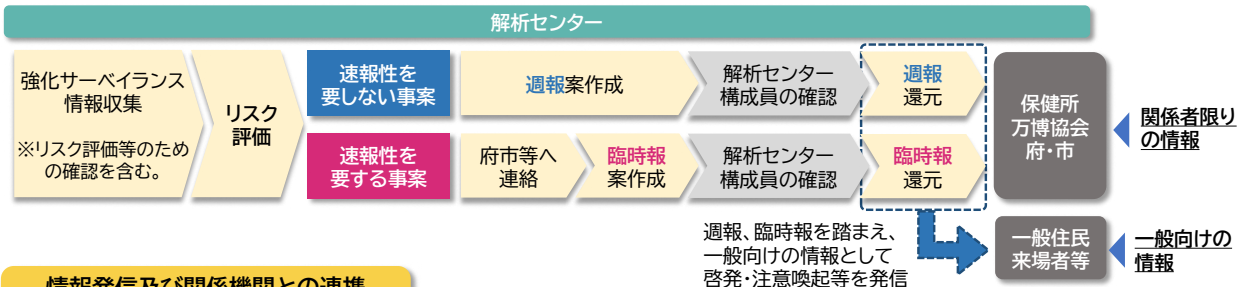
令和8年4月11日「2025年大阪・関西万博推進本部」医療衛生部会における検討状況(最終取りまとめ)資料抜粋

大阪・関西万博感染症情報解析センター概要(3)

リスク評価と週報等の還元

強化サーベイランスで収集した情報を基に、大阪健康安全基盤研究所がリスク評価の上、週報・臨時報を作成し、解析センター構成員の確認を経て、週報・臨時報を還元する。

- ・速報性を要しない事案のみの場合は、週報を還元。
 - ・速報性を要する事案がある場合は、臨時報を還元。(感染可能期間に会場内での行動歴がある場合など。)
- ※臨時報のタイミングが、週報と重複する場合は、臨時報で記載すべき内容を入れた週報を還元。



情報発信及び関係機関との連携

1. 一般住民、報道機関等への情報発信

- 一般住民や来場者等への感染症に関する予防啓発・情報発信は、大阪健康安全基盤研究所が、解析センターとしてホームページ上で実施。なお、大阪府、大阪市においても、注意喚起の必要がある時などは、一般住民、来場者及び報道機関等に向けた報道提供等を実施。

2. 関係機関との連携

- 会場内サーベイランスによる情報収集をはじめとして、万博協会と連携しながら、会場内の感染症の発生状況について情報共有を行う。
- 国、他自治体等と適宜連携しながら、万博会期中の感染対策強化を行う。
- 感染症の発生や診断時に留意すべき事項等について、医療機関へ周知する必要があるときは、大阪府医師会等の協力を得ながら、円滑に情報共有するものとする。

令和8年4月11日「2025年大阪・関西万博推進本部」医療衛生部会における検討状況（最終取りまとめ）資料抜粋

3. 感染症対応力強化のための研修・訓練等の概要

令和6年度には、万博に向けて様々な感染症対応訓練や研修を行った。

時期	令和6年7月5日	令和6年10月10日 令和6年10月11日	令和6年11月12日	令和6年11月18日 令和6年11月22日	令和6年12月5日	令和7年3月7日	令和7年3月9日
内容	蚊媒介感染症訓練 万博開催中に蚊媒介感染症が発生した場合の府市関係職員役割の確認。 ○講演 ○実動訓練（蚊生息調査・同定） ○ケーススタディ	麻しん対応研修 万博開催中に麻しんが発生することを想定し、実践をより意識した研修を実施。（2日間実施） ○講演 ○ケーススタディ	麻しん・侵襲性髄膜炎菌感染症対応訓練 会場内等で、麻しんや侵襲性髄膜炎菌感染症が発生した場合における万博協会内部の情報伝達や大阪市保健所等への情報連携について、関係者間で確認を実施。	疑似症サーベイランス対応研修 原因不明の重症の感染症疑似事例を補足する疑似症サーベイランスについて、疑似症定点医療機関と共に、発生時の対応の確認等を実施。（2日間実施） ○講演 ○ケーススタディ	新感染症患者発生時対応訓練 万博開催時の新感染症発生を想定し、保健所や救急隊員による感染症指定医療機関への移送・搬送を実施。（関係者間の連携体制を確認。）	解析センター運用確認訓練 平常時及び緊急時の解析センターの運営について、関係者で情報連携体制を確認。 (想定) 会場内外で、感染症が発生した場合を想定し、ケースごとで対応を確認。	会場内サーベイランス対応訓練 万博協会主催の医療スタッフ向け研修に合わせて、会場内サーベイランスで解析センターへ共有される情報確認等を実施。
参加者	・府・保健所設置市保健所職員 ・府感染症部局職員 ・大安研職員 ・万博協会職員※ ・近畿地方衛生研究所職員	・府・保健所設置市保健所職員 ・府感染症部局職員 ・大安研職員 ・国立感染症研究所職員/FETP ・万博協会職員※	・万博協会職員 ・大阪市保健所職員 ・府感染症部局職員 ・国立感染症研究所職員/FETP	・府・保健所設置市保健所職員 ・府感染症部局職員 ・大安研等医療機関職員 ・国立感染症研究所職員/FETP ・疑似症定点病院職員 ・万博協会職員※	・藤井寺保健所職員 ・(地独)大阪はびきの医療センター職員 ・大阪南消防局職員 ・府感染症部局職員	・府感染症部局職員 ・大阪市保健所職員 ・大安研職員 ・国立感染症研究所職員/FETP ・万博協会職員	・医療スタッフ ・万博協会職員 ・府感染症部局職員等
場所	大阪城公園 大安研	大安研	万博協会オフィス	大安研	(地独)大阪はびきの医療センター	大安研	万博会場等
講師	・大安研職員 ・府職員	・三重大学神谷教授 ・国立感染症研究所職員/FETP ・大安研職員	—	・国立感染症研究所職員/FETP ・大安研職員	—	・国立感染症研究所職員/FETP	—

※オブザーバー

1. 感染症関係5者会議の開催

万博に向けた感染症サーベイランスの強化策について、「G20 大阪サミット 2019」において大阪府及び大阪市が設置した「G20 大阪サミット感染症情報解析センター」をベースに同様の取組みができないか協議・検討を行うため、医療衛生部会の分科会にあたる役割として、大阪府、大阪市、大阪健康安全基盤研究所、国立感染症研究所、そして万博協会の関係者を招集した会議（以下、5者会議）を定期的に開催した。

【参考】G20 大阪サミット感染症情報解析センターについて

- ・2019年に大阪府・大阪市において開催されたG20大阪サミットにおいて、各種サーベイランスの実施、感染症の発生状況等の収集、専門家を交えた収集情報の解析及び関係機関への還元を目的として設置*。
- ・大阪府、大阪市、大阪健康安全基盤研究所、国立感染症研究所の職員で構成し、大阪健康安全基盤研究所が主たる運用を実施。

*「G20 大阪サミット推進本部」（大阪府知事：本部長、大阪市長：副本部長）の下に設置された「保健医療対策プロジェクトチーム」（大阪府健康医療部長：チーム長、大阪市健康局長：副チーム長）のチーム長が設置。

	開催日	内容
第1回	2023年 6月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・G20大阪サミット時の対応振り返り・万博との違いについて ・万博協会の現在の動向の共有（会場内の食品衛生・環境衛生を監視する会場衛生監視センターの設置等） ・万博開催時の役割と分担についての提案
第2回	2023年 7月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪・関西万博感染症情報解析センターの設置（案）について ・リスク評価について ・万博協会の準備状況について
第3回	2023年 8月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・府が検討中の万博関連の感染症対策予算（項目出し）の共有 ・訓練のスケジュール感の共有 ・リスク評価案について（国立感染症研究所） ・会場衛生実施計画案の共有（万博協会）
第4回	2023年 9月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク評価案について ・会場衛生実施計画案について ・大阪府市の予算要求状況の共有 ・強化サーベイランス案について ・研修・訓練のスケジュール検討状況
第5回	2023年 10月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク評価案について ・会場衛生実施計画案について ・強化サーベイランス案について ・研修・訓練のスケジュール検討状況

		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪・関西万博感染症情報解析センター設置要綱案の共有 →11月14日書面開催の第3回医療衛生部会で要綱決定 ・下水サーベイランスの共有
第6回	2023年 12月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク評価案について ・会場衛生実施計画案について ・強化サーベイランス案について ・11月14日付け策定の「解析センター設置要綱」の共有
第7回	2024年 1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・強化サーベイランス案の情報収集・解析・情報還元フローについて ・会場衛生実施計画や協議会の状況報告 ・1月9日付けで発出された国リスク評価の共有・対応の整理
第8回	2024年 2月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・強化サーベイランス案の情報収集・解析・情報還元フローについて ・リスク評価に基づく対応の整理 ・報道提供事案発生時における万博協会と行政の対応整理 ・検討状況の保健所等への共有について
第9回	2024年 3月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内診療所や万博関係者用のポータルサイトによる健康管理情報の収集について検討 ・令和6年度の研修・訓練案について ・万博のサーベイランス強化に係る国通知素案に関する意見等
第10回	2024年 4月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・強化サーベイランスの最終案について ・平時と万博会場内発生時との対応フローについて ・令和6年度の研修・訓練について
第11回	2024年 5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・強化サーベイランスの確定 ・令和6年度の研修・訓練について ・解析センターの業務整理 ・会場内救急搬送の検討状況の共有
第12回	2024年 6月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の研修・訓練について ・万博に向けた感染症強化の全体像の整理 ・感染症発生動向調査で収集した情報の解析センター構成員間での情報連携について
第13回	2024年 7月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の研修・訓練について ・府内各自治体で実施する蚊サーベイランスの現状報告等 ・解析センターで必要とする感染症発生動向調査で収集する情報の整理 ・万博協会の状況報告等
第14回	2024年 8月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・解析センターで必要とする感染症発生動向調査で収集する情報の整理 ・万博協会の状況報告等 →9月6日付けで国事務連絡が発出
第15回	2024年 9月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・会場衛生監視センターが収集した有症苦情情報等の情報確認手段の確認 ・感染症発生動向調査の情報収集フローの確認 ・万博協会の医療救護対策実施計画案の共有等

第16回	2024年 10月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症発生動向調査の情報収集フローのまとめ ・解析センター業務運営要領素案の共有・意見照会 ・週報や臨時報の検討 ・会場内サーベイランス（会場内医療救護施設の情報収集（J-SPEED）や万博関係者の健康管理情報収集（万博関係者ポータル））構築の進捗状況報告
第17回	2024年 11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・解析センター業務運営要領素案の共有・意見照会 →11月29日書面開催の第6回医療衛生部会で要領決定 ・週報や臨時報の検討 ・会場内サーベイランス構築の進捗状況報告
第18回	2024年 12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・解析センター発足式の流れ等の共有 →1月14日解析センター運用開始（発足式を実施）、強化サーベイランスの一部運用開始 ・府内保健所や大阪府医師会あての大阪府市通知案の内容検討 ・麻しんを想定した情報連携や臨時報発出に向けた内容調整 ・万博期間中の報道提供に関する関係者間の確認
第19回	2025年 1月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・土日の情報探知、臨時報の基準、会場内サーベイランスの本格稼働に向けた情報収集に関する調整、解析センターWEB サイト等、調整が必要な事項の共有 ・2月7日開催の関西広域連合担当者会議で報告する解析センターの取組や自治体への依頼事項について共有 ・解析センター業務に関する「Early Action Review(EAR)」の実施（国立感染症研究所及び国立保健医療科学院）
第20回	2025年 2月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・関西広域連合担当者会議での週報還元の要望に伴う議論（週報・臨時報の他自治体への提供） ・万博協会からの情報提供等
第21回	2025年 3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・3月7日に開催した解析センターの運用訓練のまとめ報告 ・全国自治体に対する大阪府市からの協力依頼通知案の共有（万博事例探知時の情報共有） ・万博協会からの情報提供等

2. 解析センターの運営内容決定

5者会議等において関係者間で協議し、解析センターの運営内容を決定した。

(1) 構成員※

- ・大阪府（主担当：健康医療部保健医療室医療・感染症対策課）
- ・大阪市（主担当：健康局大阪市保健所感染症対策課）
- ・大阪健康安全基盤研究所（主担当：公衆衛生部健康危機管理課）
- ・国立感染症研究所（主担当：実地疫学専門家養成コース（FETP）、応用疫学研究センター）

※令和7年4月1日時点の組織名称。以下、構成員の名称を用いるときは、別に定めるものを除き、各主担当を指すものとする。

(2) 設置内容

- ①設置・運営：大阪健康安全基盤研究所に設置し、同所が主に運営を実施した。解析センター長は、同所公衆衛生部長が務めた。
- ②運用期間：令和7年1月14日から11月27日まで※
※大阪・関西万博感染症情報センター設置要綱に基づく準備期間等を含めた設置期間（令和7年1月1日から12月31日まで）を踏まえ、サーベイランスの実施等、実運用に係る期間を設定した。
- ③運用時間：平日9時30分から17時までを基本とし、サーベイランスの内容により土日祝日も情報を収集できる体制とした。また、速やかに対応が必要な事案を探知したときは、臨時的対応も取れる体制を構築した。

(3) 業務内容概要

大阪健康安全基盤研究所を中心として①から⑤の業務を行った。平日毎日、構成員間で対面及びオンライン会議を行うことで万博関連の情報共有を行い、全ての構成員において、万博協会と相互に連携しながら各業務を行った。

- ① 各強化サーベイランスによる感染症の探知・情報収集
- ② 感染症情報の解析評価及び構成員間の会議による週報等の作成
- ③ 保健所、万博協会への情報還元
- ④ 一般住民、来場者等への感染症の情報発信
- ⑤ 関係機関との情報連携

【各構成員の主な役割】

- ▶大阪府：感染症発生動向調査に基づく府内の感染症の探知、関西広域連合構成団体及び連携県※の感染症対策部局等関係機関への情報共有、関係機関との情報連携等を行った。
※大阪府・大阪市以外の滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、堺市、神戸市、福井県、三重県及び各県の中核市
- ▶大阪市：感染症発生動向調査に基づく大阪市内の感染症の探知、万博協会との連携による会場内の情報探知、関係機関との情報連携等を行った。
- ▶大阪健康安全基盤研究所：感染症発生動向調査に基づく府内の感染症の探知、各強化サーベイランスの情報収集の統括、専門的見地による解析評価、週報等の作成及び府内保健所と万博協会への情報還元、WEBサイトによる一般住民、来場者等への情報発信等を行った。
- ▶国立感染症研究所：国内外の万博に関連する感染症情報の収集のほか、大阪健康安全基盤研究所、大阪府、大阪市と連携し専門的見地から解析、リスク評価、週報作成等について技術支援を行った。

3. 強化サーベイランスの情報収集体制の構築

国のリスク評価の内容を踏まえ、5者会議等において関係者間で協議し、5種の強化サーベイランスによる情報収集体制を構築した。強化サーベイランスの実施については、万博開催前におけるベースラインデータの取得のため、令和7年1月14日から順次開始した。また、万博関係者や来場者の滞在期間及び感染症の潜伏期間等を考慮し、閉会後もしばらくの間、強化サーベイランスの収集を継続した。

なお、リスク評価時に必要な情報を速やかに取得できるよう、各サーベイランスにおける連絡窓口

を予め調整した。

【強化サーベイランスの決定の考え方】

- 開催時期（春～秋）を考慮した対応に加えて、マンパワー等を踏まえた持続可能な対応が必要。
- 万博関係者・参加者の感染状況やその兆候のモニタリング、国内外の感染症流行状況の把握等、多角的に感染症発生やそれらの兆候を探知できるサーベイランスの実施が必要。

（１）万博関係者及び来場者の感染症情報の収集（万博関連サーベイランス）

国事務連絡に基づき実施した万博関係者及び来場者の患者情報を収集する強化サーベイランス。大阪健康安全基盤研究所を中心に感染症サーベイランスシステムにより収集した。実施にあたっては、大阪府医師会等関係団体に対し協力依頼を行った。また、大阪府外の自治体で発生した万博関連の患者情報については、確実かつ円滑に府内に情報が入るよう、万博サーベイランス開始前に全国自治体に対し協力依頼を行った。（５．関係機関への依頼・その他調整等（４）参照）

【強化サーベイランス対象疾患】

- ・麻しん ・侵襲性髄膜炎菌感染症 ・中東呼吸器症候群（MERS）
- ・万博会場内で提供された食品に関連した腸管出血性大腸菌感染症

（２）万博協会が探知した会場内の感染症情報の収集（会場内サーベイランス）

大阪健康安全基盤研究所を中心に、万博協会が集約する万博関係者の健康管理情報並びに医療救護施設での受診者数（症状別人数等）や感染症の疑いがあると診察された患者情報等を収集した。万博協会からの情報収集にはMicrosoft Teams（以下、Teams）を用いた。

- ① 万博関係者の日々の健康管理情報（出勤者数、体調不良による欠勤者・早退者数、うち発熱、呼吸器症状、消化器症状、全身性発疹の症状がある人数）
万博協会の関係者向けポータルサイトで報告された所属毎の万博関係者の健康管理情報を日報として Teams 等で共有。
- ② 医療救護施設で診察された感染症を疑う患者情報等
万博協会が取りまとめた情報を日報として Teams 等で共有。（参考：万博協会は医療救護施設からの診療情報収集に J-SPEED を利用。）

（３）蚊媒介感染症に係る媒介蚊サーベイランスの結果収集（蚊サーベイランス）

大阪府、大阪市及び府内保健所設置市が実施する感染症媒介蚊サーベイランスの検査結果を大阪健康安全基盤研究所が収集した。蚊の捕獲場所は、万博会場内（大阪市保健所実施）２か所を含めて府内計 54 か所で実施し、検査結果は、各自治体のサーベイランス実施期間にしたがって 5 月～10 月の間で収集した。

堺市においては、大阪健康安全基盤研究所ではなく、堺市衛生研究所で検査実施のため、予め情報共有体制を構築した。

（蚊捕獲及び検査は自治体によって異なり、2週間に1回～月1回の頻度で行われた。）

（４）メディア情報等による国内外の感染症情報の収集（メディア情報サーベイランス）

国立感染症研究所が、万博に影響のある国内外の感染症に関するメディア情報を収集した。

(5) 外部団体が実施する薬局サーベイランスの活用（薬局サーベイランス）

公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本薬剤師会、日本大学薬学部薬学研究科、株式会社EMシステムズの4者が共同運用し公開している薬局サーベイランスの情報から、大阪健康安全基盤研究所が抗インフルエンザ薬等の処方数による推計患者数を収集した。

【参考】

- サーベイランス実施期間が長期間になること、要人警備等を要する各国要人が一同に会するイベントでは無かったことから、G20 大阪サミット時に実施した警察官の健康状態の把握（警察官サーベイランス）等は実施対象から除外した。
- 感染症を疑う患者で万博会場から会場外医療機関に搬送された場合には、万博協会からの情報提供等により情報把握できることから、会場からの救急搬送状況の把握（救急搬送サーベイランス）も実施対象から除外した。

4. 解析センター運営に向けた各種調整

(1) 構成員間の情報連携体制の構築

解析センター構成員及び万博協会職員が円滑に情報連携できるよう複数ツールを利用した。

① Teams の活用

異なる組織間でチャットやファイル共有ができ、ファイル等の書き換え履歴も残ることから、Teams を利用した。Teams 内で、解析センター構成員のみが利用できるグループと万博協会も加えた関係者が利用できるグループを作成し、共有する情報のすみ分けを行うことで情報管理した。令和7年1月14日の解析センター運営開始以降、平日毎日 Teams でミーティングを行った。

② 緊急連絡先の共有

土日祝日でも繋がる連絡先を構成員間で共有し、緊急時対応に備えた。

(2) リスク評価体制の構築

強化サーベイランスの情報を基に大阪健康安全基盤研究所及び国立感染症研究所が中心となり実施することとした。

(3) 週報・臨時報の調整

各強化サーベイランスの情報やリスク評価の結果を週報として、保健所及び万博協会に還元する体制を構築した。情報発信日は、府が実施している通常の感染症発生動向調査の公表と合せ、原則毎週木曜日とし、感染症サーベイランスシステムのファイル共有機能を用いて共有する体制とした。

速やかに保健所等に還元すべき万博関連情報を探知した場合は、速やかに Teams 等で会議を実施し、臨時報発信の検討や迅速な発出ができる体制を構築した。

(4) 土日祝日の体制の構築

土日祝日を問わず会場内サーベイランスの情報収集を行うため、大阪健康安全基盤研究所及び国立

感染症研究所が、会場内サーベイランスの情報を分析・評価し、関係者間に共有する体制を構築した。
なお、必要に応じて Teams 等により臨時の会議を実施する体制も予め構築した。

(5) 解析センターのWEBサイトの調整

万博に関連した感染症情報のほか、感染症の府内流行状況や予防啓発等を一般住民や来場者等に対し分かりやすく情報発信することを目的に、大阪府感染症情報センターWEBサイト内に、多言語※自動翻訳機能を付加した解析センター専用サイトを作成した。

※英語、韓国語、中国語（繁体・簡体）、スペイン語、フランス語、ロシア語、アラビア語

5. 関係機関への依頼・その他調整等

万博関連サーベイランスについては、情報収集を円滑に行うため、開催前に各関係機関に対し大阪府及び大阪市から依頼を実施した。

(1) 大阪府医師会等関係団体への協力依頼（令和6年12月18日）

大阪府医師会、大阪府病院協会、大阪府私立病院協会、大阪精神科病院協会に対し通知を发出。

- ・解析センターの周知
- ・国事務連絡に基づく取組強化の周知徹底

(2) 府内保健所への協力依頼（令和6年12月27日）

政令市・中核市を含む府内保健所と万博協会に対し通知を发出。

- ・解析センターの周知
- ・国事務連絡に基づく取組強化の周知徹底

(3) 万博協会への協力依頼（令和6年12月27日）

万博協会に対し通知を发出。

- ・解析センターの周知及び会場内サーベイランスの情報提供に係る協力依頼

(4) 全国都道府県への協力依頼（令和7年3月26日）

府内政令市・中核市を含めて全国都道府県等に対し通知を发出。

- ・解析センターの周知
- ・万博に関連した感染症患者を探知した場合における協力依頼

(5) 関西広域連合の構成団体及び連携県との情報連携体制の構築

令和7年2月7日開催の関西広域連合構成団体及び連携県感染症担当者会議において、関西広域連合の関係自治体へも解析センター週報の情報提供を希望する声が上がったため、5者会議で協議のうち、府内保健所用週報から情報を絞り情報提供することとした。情報提供方法は、感染症サーベイランスシステムを用いた。

【情報提供先】

関西広域連合構成団体・連携県及びその中核市

- ・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・徳島県・京都市・神戸市・福井県・三重県

・大津市・姫路市・尼崎市・明石市・西宮市・奈良市・和歌山市・鳥取市・福井市
 (6) 万博メインサイト(万博協会)への掲載調整

万博協会のメインサイトから、解析センター専用サイトにアクセスできるように、万博協会と調整し、万博メインサイト内の「防災・安全」に関するページに URL を掲載した。

6. 万博開催までに実施した各種研修・訓練

万博期間中に発生しうる公衆衛生上の影響力が大きな感染症に対する保健所職員等の対応力強化を目的に、令和6年度に様々な研修や訓練を実施した。実施にあたっては、国立感染症研究所や大阪健康安全基盤研究所等から講師の派遣を要請した。

(1) 蚊媒介感染症対策訓練(主催:大阪府)

実施年月日	令和6年7月5日
目的	万博開催中に蚊媒介感染症が発生した場合における蚊の発生源の推定、生息調査及び防疫対応等の習得・習熟や関係機関等との連携体制の構築
参加者	大阪府保健所地域保健課・衛生課職員、本庁感染症対策課・環境衛生課職員、政令市中核市保健所職員、大阪健康安全基盤研究所職員等
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●大阪城公園での蚊の生息調査(人囿法等)、蚊の同定の実演、生息密度等の図上へのプロット作業等 ●図上訓練、ケーススタディ(推定感染地対策、疫学調査) ●講義(蚊媒介感染症、万博関連等) 講師:大阪健康安全基盤研究所微生物部ウイルス課研究員



CDC ライトトラップ



蚊捕捉の様子

(2) 麻しん対応研修(主催:大阪府・大阪市)

実施年月日	令和6年10月10日、10月11日
目的	麻しん発生に備えた保健所職員等の疫学調査等現場対応能力の向上

参加者	府内保健所職員などの感染症対策業務に携わる職員等
実施内容	<p>●講演「麻しんとマスギャザリング」 講師：三重大学大学院医学研究科公衆衛生・産業医学・実地疫学分野教授 神谷 元氏</p> <p>●ケーススタディー 「大阪・関西万博開催時に麻しんが府内で発生した場合の対応」 (ファシリテーターは、大阪健康安全基盤研究所、国立感染症研究所 (FETP) に依頼)</p> <p>●事務連絡 ・「2025 年日本国際博覧会における感染症対策について」 説明者：万博協会危機管理局職員 ・「大阪・関西万博に向けた感染症対策の取り組み」 説明者：大阪府感染症対策課職員</p>



研修の様子

(3) 感染症対応訓練 (主催：万博協会)

実施年月日	令和6年11月12日
目的	麻しん・侵襲性髄膜炎菌感染症等発生時（疑いを含む）の情報連携体制や関係機関の動きを確認
参加者	解析センター構成員の職員
実施内容	<p>●麻しん発生時における情報連携</p> <p>●侵襲性髄膜炎菌感染症発生時における情報連携</p>

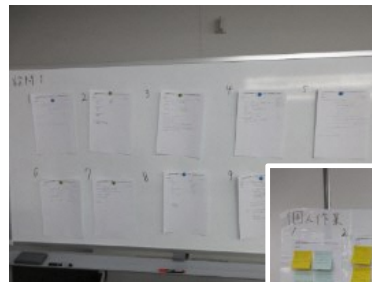
(4) 疑似症サーベイランス対応研修 (主催：大阪府・大阪市)

実施年月日	令和6年11月18日、11月22日
目的	疑似症サーベイランスに基づく症例探知に備えた保健所職員の疫学調査等現場対応能力や疑似症定点医療機関との情報連携体制の構築
参加者	府内保健所職員、地方衛生研究所職員、疑似症定点医療機関職員等
実施内容	<p>●講演「疑似症サーベイランスの概要」 講師：国立感染症研究所 実地疫学研究センター主任研究官 福住 宗久氏</p>

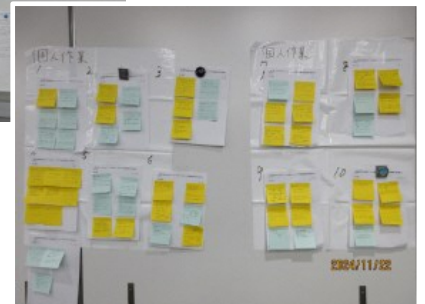
	<p>●事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪・関西万博に向けた感染症対策の取組」 説明者：大阪府健康医療部保健医療室感染症対策課職員 ・「大阪・関西万博会場内の医療救護・サーベイランス体制」 説明者：万博協会危機管理局職員 <p>●「疑似症サーベイランス」ケーススタディー</p> <p>講師：国立感染症研究所 実地疫学研究センター主任研究官 福住 宗久氏 感染症危機管理研究センター主任研究官 佐々木 広視氏 (ファシリテーターは、大阪健康安全基盤研究所、国立感染症研究所 (FETP) に依頼)</p>
--	---



研修の様子



ケーススタディで出た各グループの意見



(5) 新感染症患者発生時対応訓練 (主催：大阪府藤井寺保健所)

実施年月日	令和6年12月5日
目的	新感染症疑い患者発生時に備え、消防による救急搬送や保健所による移送について実演を通じて関係者間で対応確認
参加者	藤井寺保健所職員、大阪南消防局職員、大阪はびきの医療センター職員等
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ●消防による第二種感染症指定医療機関への救急搬送等 ●保健所による第一種感染症指定医療機関への移送等



訓練の様子①



訓練の様子②

(6) 解析センター運用確認訓練（主催：大阪府・大阪市）

実施年月日	令和7年3月7日
目的	平常時及び緊急時の解析センターの運営について、関係者で情報連携体制を確認
参加者	解析センター構成員（大阪府、大阪市、大阪健康安全基盤研究所、国立感染症研究所の職員）、万博協会職員
実施内容	●講演「訓練概要の説明等」 講師 国立感染症研究所感染症危機管理研究センター長 齋藤 智也氏 ●訓練 万博開催期間中に、会場で麻しん疑い症例が発生した場合の各構成員の対応等を確認。



研修の様子

(7) 会場内サーベイランス対応訓練（主催：万博協会）

実施年月日	令和7年3月9日
目的	会場内サーベイランスで解析センターへ共有される情報の確認
参加者	医療救護施設の医療スタッフ、万博協会職員、府感染症部局職員等
実施内容	●万博協会主催の医療スタッフ向け研修に合わせて、会場内サーベイランスで解析センターへ共有される情報確認等を実施。

1. 解析センター運営開始（発足式）

万博開催に向け、サーベイランス情報のベースラインの収集や会場内サーベイランスの情報分析の試行等を目的に、3か月前の令和7年1月14日から運用を開始した。

当日には、大阪健康安全基盤研究所にて構成員間による解析センターの発足式を行い、解析センター執務室にて報道機関向けのブリーフィングを行った。



発足式(毎日新聞撮影写真)

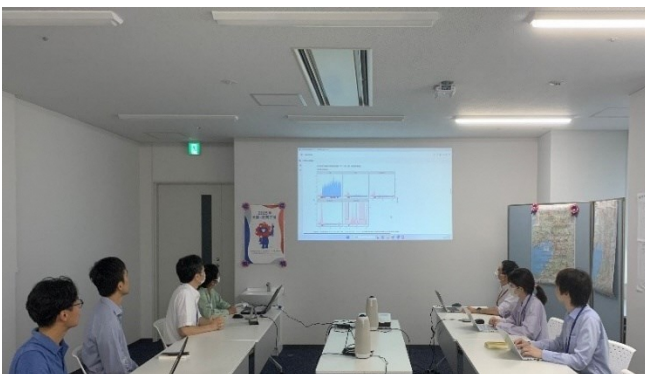


解析センター看板設置

2. 解析センターの一日の流れ

(1) デイリーミーティング

解析センター構成員及び万博協会メンバー間において、平日毎日 Teams でミーティングを行い、サーベイランスの情報共有を行った。会場内サーベイランスやメディア情報サーベイランス情報については万博協会も参加し、機微な情報を含む感染症発生動向調査（万博サーベイランス）の情報は、解析センター構成員のみの参加で運用した。



デイリーミーティングの様子

(2) 情報収集、リスク評価

① 情報収集

感染症サーベイランスシステムから強化サーベイランス対象疾患等の報告内容を収集し、万博の記載があるものや万博の関連が明確でないものの可能性が疑われるものについて、デイリーミーティング内における検討対象とした。会場内サーベイランスでは、万博関係者の健康管理情報（出勤者数、体調不良による欠勤者・早退者数、うち発熱・呼吸器症状・消化器症状・全身性発疹がある人数）や会場内医療救護施設における診療情報（発熱、呼吸器症状、消化器症状、全身性発疹及び髄膜炎症状の有無並びにその他感染症に係る診断情報）を収集し、ベースラインとの比較を行った。

② リスク評価

デイリーミーティングにおいて、これらサーベイランスで挙げられた項目について、初期リスク評価、事例の検証を行った。その結果、確認が必要と考えられた事例について、保健所又は万博協会への問い合わせを実施し、その結果を踏まえて再度の評価を行った。また、週報ミーティングにおいては、定点把握疾患の感染性胃腸炎、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症については、過去5年（新型コロナウイルス感染症については定点となった期間）の状況との比較や薬局サーベイランスを確認し評価するとともに、蚊サーベイランスの結果の確認評価を行った。

3. 週報・臨時報の作成・情報還元

週報や臨時報は、大阪健康安全基盤研究所が府内用（保健所及び万博協会）と府外用（関西広域連合関係自治体）の各案を作成し、Teamsでの週報ミーティングにより解析センター構成員で共有、協議のうえ確定させた。（週報ミーティングは原則火曜日実施）

府内用は、大阪健康安全基盤研究所が感染症サーベイランスシステムのファイル共有機能で提供し、府外用は大阪府が同システムで提供した。

【週報・臨時報の提供数】

- ・週報：計45報（府外用は万博開催後から提供開始 計33報）
- ・臨時報：計1報

※提供した臨時報については、「4. 万博関連として対応した事例」（4）を参照

4. 万博関連として対応した事例

解析センターの運営期間中、万博及び大阪府内に影響しうる健康危機事象が発生する可能性を示す情報は計1,325件探知された。このうち、解析センターが追加の情報確認や検証を行った事例は239件であり、さらに239件のうち、週報等による情報発信を行った事例は72件であった。そして72件のうち、万博に関連する情報について、解析センターが重点的なモニタリングや保健所・万博協会へ技術的助言等の対応を取った事例は5件であった。

その5件のうち、さらなる感染拡大の可能性や社会的影響等を踏まえ、大阪府、大阪市又は万博協会が速やかに一般住民等に情報発信をする必要があると判断し、公表した2件※を例に挙げる。

※（1）の事例については万博協会のみ実施。

(1) 万博会場内水景施設でレジオネラ属菌検出事例（令和7年6月）

万博会場内水景施設でレジオネラ属菌が検出されたことを受け、万博協会や大阪市に情報確認を行うとともに、府内保健所に届出されたレジオネラ症について、万博会場との関連の有無を確認するなど万博関連サーベイランスの強化を行った。水景施設の使用中止後一定期間にわたりこれらの確認を行った結果、万博会場で感染したと断定されたレジオネラ症患者の発生はなく、対応終了とした。

(2) 感染可能期間に万博会場来場歴があった麻しん患者事例（令和7月7月）

府外在住の麻しん患者が感染可能期間に万博に来場していたとの情報を受け、探知当日に、迅速に保健所に情報共有するため臨時報を発信し、一般住民等に対しても解析センター専用サイトでの注意喚起を行った。

患者が会場を訪れたのち、一定期間、万博関連サーベイランスや会場内サーベイランスで麻しん症例（疑い含む）の発生の有無の確認を行った。万博会場が感染源と推定される麻しん患者の発生はなく、対応終了とした。

5. 解析センター専用サイトでの情報発信

大阪府内の感染症発生状況、手洗い等の感染予防策の啓発、国内・世界の感染症関連情報、医療機関向け情報の掲載を行った。

大阪・関西万博感染症情報解析センター

大阪府内の感染症発生状況に関する情報

万博会場に関する感染症発生のお知らせ

大阪府・大阪市が報道提供等により注意喚起したものを掲載します。
「大阪・関西万博の利用者で麻しんの報告がありました」

6月21日に大阪・関西万博、大阪・関西万博シャトルバスを利用された方は、以下をご覧ください。

[麻しん（はしか）に関する注意情報](#)（7月5日大阪府報道発表）
[麻しん患者発生に伴う注意喚起について](#)（7月5日大阪市報道発表）
[2025年日本国際博覧会協会による注意喚起](#)（7月5日博覧会協会ホームページ）

大阪府内の感染症発生状況（第26週時点）

大阪府感染症情報センター 週報トピックスは[こちら](#)

感染症	前週との比較
インフルエンザ	↑
新型コロナウイルス感染症	↑
感染性胃腸炎	↓

大阪府感染症発生状況の詳細は[こちら](#)（大阪府感染症情報センター）

大阪府内の感染症注意喚起情報

[伝染性紅斑（リンゴ病）](#)が流行しています。ご注意を！

国内、世界の感染症関連情報

デング

世界における発生状況

- [Global Dengue Surveillance](#) (WHO)
- [Areas with Risk of Dengue](#) (US CDC)
- [Dengue worldwide overview](#) (ECDC)

麻疹

国内における発生状況

- [大阪府内麻疹発生状況](#) (大阪府感染症情報センター)
- [国内における麻疹発生状況](#) (国立感染症研究所)

世界における発生状況

- [Global Measles Outbreaks](#) (US CDC)
- [Provisional measles and rubella data](#) (WHO)

その他関連ページ

[2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」ホームページ](#)

日本に渡航する際のワクチン関連情報

- [Guide vaccines for Japan \(JNTO\)](#)
- [Traveler's Health \(US CDC\)](#)

医療機関の皆様へ

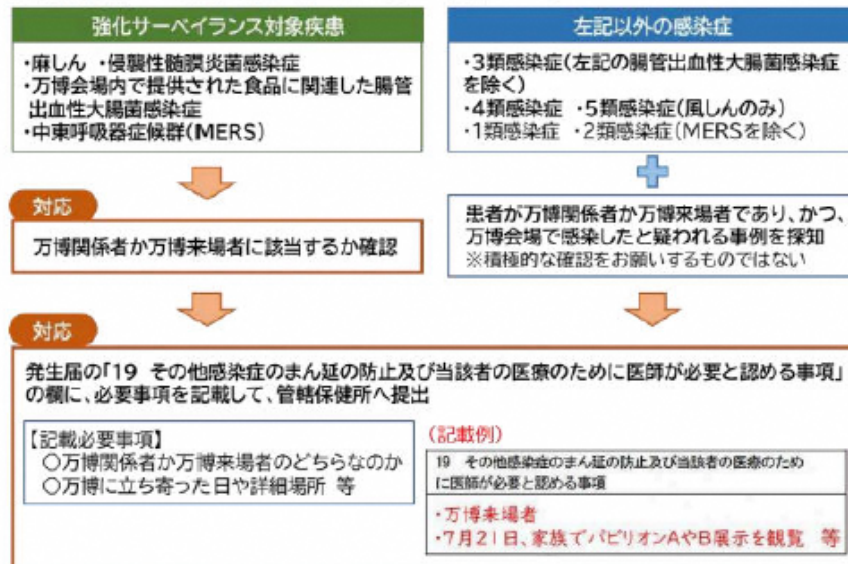
2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)におけるサーベイランスの取組強化が実施されています

[2025年日本国際博覧会\(大阪・関西万博\)開催に伴う感染症サーベイランスの取組強化について](#) (R6年9月6日)

[2025年日本国際博覧会\(大阪・関西万博\)に備えた大阪・関西万博感染症情報解析センターの設置及びサーベイランスの取組強化について](#) (協力依頼) (大阪府)

[症状からアプローチするインバウンド感染症への対応～感染症クイック・リファレンス2025](#) (日本感染症学会)

【万博関係者又は万博来場者に係る発生届への記載フロー】



第4編 資料編

- 【別添1】大阪・関西万博感染症情報解析センター設置要綱
- 【別添2】大阪・関西万博感染症情報解析センター業務運営要領
- 【別添3】国リスク評価（令和6年1月9日付け国立感染症研究所発出「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けての感染症リスク評価」）
- 【別添4】国事務連絡（令和6年9月6日付け厚生労働省発出「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催に伴う感染症サーベイランスの取組強化について」）
- 【別添5】大阪府医師会への協力依頼
- 【別添6】府内保健所への協力依頼
- 【別添7】万博協会への協力依頼
- 【別添8】全国都道府県等への協力依頼